

「見えるもの」から「見えないもの」をみる ーアセスメントを深める看図アプローチ 交流セッション実施

2026 年 8 月 30 日、日本看護学教育学会第 36 回学術集会において、交流セッション「『見えるもの』から『見えないもの』をみるーアセスメントを深める看図アプローチ」を実施しました。会場には 50 席が準備されていましたが、立ち見が出るほど多くの方にご参加いただきました。

交流セッションでは、写真や動画をビジュアルテキストとして活用した看図アプローチを体験していただきました。「ものこと原理」で写真や動画に写っているものを言葉に変換し、それを手がかりに写真に写るこどもの年齢を考えたり、グループで動画の続きを予想したりする活動を行いました。

変換活動では、自分が気づかなかったものをほかの参加者が見つけて発表すると、「おー」「はー」「ほんとだ」といった声が飛び交いました。また、動画の続きを予想する活動では、思いがけない結末に会場が笑いに包まれました。



© Copyright 2023 株式会社 東京義塾

『イラスト 子どもの保健・健康と安全』より

セッションの最後に看図アプローチの理論と技法を簡単に紹介するとともに、全国看図アプローチ研究会の紹介をすると、ほとんどの方が研究会の QR コードを読み込まれていました。またセッション終了後には、「この教材を使いたい」「もっと詳しく知りたい」「研修会に来ていただきたい」など、多くのお声掛けをいただきました。

参加者同士が観察したことや解釈したことを共有しながら、一人では気づかなかった見方・考え方に会う様子から、看図アプローチは看護における観察やアセスメントの学びによくなじむ教育方法であることを、改めて実感できる時間となりました。

(文責：中村学園大学 山下雅佳実)